



■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■バージョン: CASBEE横浜2017年版v.1.7

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DPL新横浜Ⅱ新築工事	階数	地上5F
建設地	神奈川県横浜市都筑区川向町字南野地388番111第1(施行地区内6街区1,2号)	構造	RC造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	580人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、学校、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 予定	評価の実施日	2021年2月17日
敷地面積	41,273 m ²	作成者	田村、加藤、川村、小田原
建築面積	20,338 m ²	確認日	2021年2月17日
延床面積	98,258 m ²	確認者	宮本信之、山口雅一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
総合	周辺環境に配慮し、周辺道路沿いに緑地を配置するとともに、屋上緑化を行い、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇の抑制に努めた。また、将来の用途変更や、設備システムの更新性に配慮するとともに、設備システムの効率化を図り、省エネルギー対策を行った。	0
Q1 室内環境	事務所部分において、化学汚染物質の抑制、建物全体を禁煙とするなど、室内環境に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 横浜市の色彩計画基準に則り、色彩計画を実施するとともに、通りからの見え方に配慮し、道路際に植栽帯を計画した。また、地上だけでなく、屋上緑化も実施し、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇の抑制に努めた。
LR1 エネルギー	設備システムの効率化を図り、省エネルギー対策を行った。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ の排出量を削減し、地球温暖化の防止を図った。また、No x、Sox等の排出をさせないことで、大気汚染の防止に努めた。
Q2 サービス性能	将来の用途変更や設備システムの更新性を考慮し、階高、空間形状、荷重のゆとりを確保した。また、将来用の給排水設備及びスリブを設け、配管の更新性や給排水設備の追加に対応した。	
LR2 資源・マテリアル	節水型器具を採用し、水資源負荷の低減に努めた。また仕上げ材に有害物質を含まない材料を使用し、環境負荷削減を図った。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

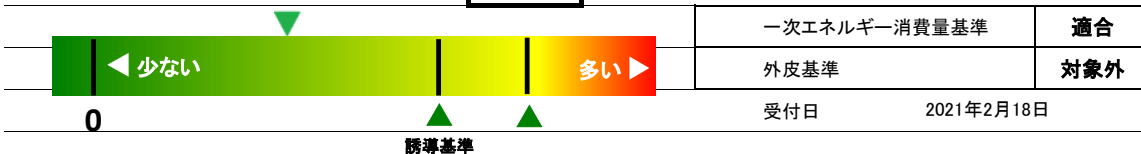
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)DPL新横浜Ⅱ新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **55** %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

周辺環境に配慮し、緑地を配置するとともに、屋上緑化を行い、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇の抑制に努めた。将来の用途変更や、設備システムの更新性に配慮するとともに、設備システムの効率化を図り、省エネルギー対策を行った。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。

建物全体を禁煙としている。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

事務室の天井高さは2.9m以上としており、全面に窓を計画している。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 4**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

免震構造とし、防災への配慮をしている。

耐用年数20年以上を有している材料を利用している。

ほぼ亜鉛鉄板を使用し、多湿部などはガルバリウム鋼板を使用。

中央式空調方式を採用せず、各居室ごとにシステムを分割している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 3**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

外構緑化指数を20%以上確保している。建物緑化指数を5%以上確保している。維持管理に必要な設備を設置している。

横浜市の色彩計画基準に則った、色彩計画を実施するとともに、通りからの見え方に配慮し、道路際に植栽帯を計画している。

敷地境界線上は、メッシュフェンスを設置する事で、見通しのよい計画としている。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.7
(仮称)DPL新横浜II新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート	実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目	<非住宅> <集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
							評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音									
1.2 遮音									
1.2.1 開口部遮音性能									
1.2.2 界壁遮音性能									
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
2.1.1 室温									
2.1.2 外皮性能									
2.1.3 ソーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 屋光利用									
3.1.1 屋光率									
3.1.2 方位別開口									
3.1.3 屋光利用設備									
3.2 グレア対策									
3.2.1 屋光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
4.1.1 化学汚染物質									
4.2 換気									
4.2.1 換気量									
4.2.2 自然換気性能									
4.2.3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
4.3.1 CO ₂ の監視									
4.3.2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1.1.1 広さ・収納性									
1.1.2 高度情報通信設備対応									
1.1.3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1.2.1 広さ感・景観									
1.2.2 リフレッシュスペース									
1.2.3 内装計画									
1.3 維持管理									
1.3.1 維持管理に配慮した設計									
1.3.2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震									
2.1.1 耐震性									
2.1.2 免震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数									
2.2.1 躯体材料の耐用年数									
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔									
2.4 信頼性									
2.4.1 空調・換気設備									
2.4.2 給排水・衛生設備									
2.4.3 電気設備									
2.4.4 機械・配管支持方法									
2.4.5 通信・情報設備									
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり									
3.1.1 階高のゆとり									
3.1.2 空間の形状・自由さ									
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									
3.3.1 空調配管の更新性									
3.3.2 給排水管の更新性									
3.3.3 電気配線の更新性									
3.3.4 通信配線の更新性									
3.3.5 設備機器の更新性									

CASBEE[®]横浜 | 評価結果 | 2-143



CASBEE横浜2017年版v.1.7
 (仮称)DPL新横浜II新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-		



CASBEE横浜2017年版v.1.7
 (仮称)DPL新横浜II新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39	-
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑧生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑩地域性への配慮		2.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑪敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		4.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		2.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				4.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	-
1 消火剤				-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮				4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制				5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-	-	-	-
1 騒音				-	-	-	-	-
2 振動				-	-	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.67	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				2.3	0.33	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.0	0.70	-	-	-
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-
上記以外の重点項目					-	-	-	-
<事務用途>					-	-	-	-
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組		1.0	-	-	-	-
<住宅用途>					-	-	-	-
健康と安心					-	-	-	-
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑭健康対策		-	-	-	-	-
2 適切な換気計画	健康・安心	⑭健康対策		-	-	-	-	-
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑭健康対策		-	-	-	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑮防犯対策		-	-	-	-	-